

クラス番号	332	担当教員名	片山 善博
		他専修学生受入上限人数	0 名
テーマ	福祉の人間学——人間を関係のなかで考える		
ゼミナール概要			
目的、内容、方法等：			
本ゼミでは、「人間とはどのような存在か」という問いを出発点として、社会福祉のあり方を考える。人間を自立した個人としてのみ捉えるのではなく、他者との関係のなかで生き、ときに傷つき、支え合いながら自己を形成していく存在として捉え直す。具体的には、居場所、ケア、承認、コミュニケーション、生と死、共生などをテーマに、身近な経験や社会福祉の具体的な問題から、人間の生と社会福祉との関係を探究する。 ゼミでは、文献の講読や学生による報告を行うとともに、それぞれの経験や考えを持ち寄り、互いに自由に意見を交わす。また、身近な生活経験や社会福祉の具体的な事例を取り上げ、そこから生まれる疑問や問いについて考察を深める。必要に応じて、福祉や地域の現場で活動するゲスト講師を招き、さまざまな経験や考え方に触れる機会も設ける。 正解を求めるのではなく、異なる考えに耳を傾けながら、ともに問いを深めていく。最終的には、学生一人ひとりが自らの関心に基づいて問いを設定し、文献や資料を用いて考察し、自分の言葉で表現する力を身につけることを目指す。 授業計画： 前期は、人間の自立と依存、他者との関係、居場所、承認、ケア、生と死などを共通のテーマとして取り上げ、文献講読と討議を通して理解を深める。テーマによってはゲスト講師を招き、福祉や地域の現場での具体的な経験に触れながら、学生同士で自由に意見を交わす機会を設ける。 後期は、前期の学習を踏まえ、それぞれの学生が自分自身の関心や問題意識を振り返りながら研究テーマを設定する。文献や資料を調べて報告し、その内容についてゼミ全体で議論することを繰り返しながら、一人ひとりの問いを深めていく。こうした学びを通して、4年次の卒業研究につながる自らの問題意識を育てていく。なお、学生の関心に応じて、具体的な福祉実践の事例検討やフィールドワークなども取り入れる。			
担当教員からのメッセージ			
私たちは、誰かに支えられ、ときには誰かを支えながら生きています。そうしたなかで、人は傷ついたり、孤独を感じたり、誰かを理解できずに戸惑ったりすることもあります。 このゼミでは、そうした身近な経験を出発点として、「人間とは何か」「他者とともに生きるとはどういうことか」「福祉とは何か」を考えていきます。本ゼミで大切にしたいのは、自分の考えを言葉にし、他者の声に耳を傾け、ともに問いを深めていくことです。哲学・倫理についての知識は必要ありません。身近な出来事に疑問を持ち、人間や社会についてじっくり考えてみたいという学生の参加を歓迎します。			